



江東区長
大久保 朋果

江東区は、東京23区の東部に位置し、隅田川や荒川、東京湾に囲まれた「水彩都市」です。親水公園や緑道が区内を走り、大都市東京の中心にありながらも自然に親しむことのできる水と緑豊かな区です。江戸の歴史・文化を残した街並みと下町人情があふれる「深川地区」「城東地区」、豊洲千客万来が開業されるなど、注目度の高い「臨海部地区」。魅力ある3つのエリアが、2030年代半ばを目標とする地下鉄8号線の延伸で強く結ばれ、益々の発展が期待される高いポテンシャルと、可能性の宝庫のまちです。また、区内に本拠地をもつトップスポーツチームとの連携を通じて、地域の活性化を進めるなど、「スポーツと人情が熱いまち」でもあります。

区民の9割が定住意向を示しており、これからも「住みたい」「住み続けたい」と思っているように、大きな期待が寄せられている「防災対策」や「子育て支援」の充実など、区民ニーズを踏まえた実効性のある施策をスピーディーに行い、誰もが笑顔で活躍できる「選ばれる江東区」を目指していきます。そのために、熱意をもってチャレンジしていく皆さんの力を求めています。DX推進など、働きやすい職場環境の整備も進めていきます。区民の現在、そして未来のため、笑顔あふれる江東区を共に創っていきましょう。

江東区データ

KOTO CITY DATA



※ 令和6年4月1日時点

人口
539,439人

面積
42.99 km²

令和6年度予算
(一般会計)
2,543 億円

職員数
(うち女性1,425人)
2,709人

区の花
サザンカ

区の木
クロマツ



江東区がめざすまちの姿

江東区基本構想

江東区では、平成21年3月に策定した「江東区基本構想」で区の将来像を「みんなでつくる伝統・未来 水彩都市・江東」と定めています。基本構想とは、まちの将来像を定め、まちづくりにおける基本的な指針となるものです。

この基本構想では、目指すべきまちの姿をそれぞれの分野ごとに具体化し、次の5つの大綱として定めています。

- 1 緑環境 水と緑豊かな地球環境にやさしいまち
- 2 産業生活 区民の力で築く元気に輝くまち
- 3 まちづくり 住みよさを実感できる世界に誇れるまち
- 4 健康福祉 ともに支えあい、健康に生き生きと暮らせるまち
- 5 子育て教育 未来を担うことを育むまち



江東区長期計画

長期計画は、基本構想に定める将来像及び施策の大綱を実現するため10年間の具体的な施策の方向性を示す区の総合計画です。令和2年度から新たな長期計画のもと、未来の江東区づくりに向けて一層積極的な事業展開を行っています。

長期計画
平成22年度~平成31年度
(2010) (2019)

新長期計画
令和2年度~令和11年度
(2020) (2029)



スポーツと人情が熱いまち 江東区のスポーツ特集



堀米 雄斗
選手

スケートボード

スケートボードは東京2020大会で初めてオリンピック競技として実施され、江東区の東砂小学校・砂町中学校出身のスケートボード選手である堀米雄斗選手が東京2020大会に続き、パリ2024大会で二大会連続の金メダル獲得という快挙を成し遂げました。

東京2020大会で区長表敬訪問をした際の堀米雄斗選手の言葉をきっかけに令和4年11月に誕生したのが、「夢の島スケートボードパーク」です。都内屈指の敷地面積を誇るこの施設から第二、第三の堀米雄斗選手が生まれることを期待しています。

トップスポーツチームとの連携協定

江東区では現在、4つのスポーツチームと、地域社会の発展を目的とした相互連携・支援協力に関する協定を締結し区民スポーツの普及振興と地域の活性化を目指しています。

令和6年4月に協定を締結した、男子プロバスケットボールリーグのB.LEAGUE1部に所属するアルバルク東京からは移動式バスケットゴール1台が寄贈され、南砂三丁目公園内にバスケットゴールエリアを開設しました。



PICK UP 事業

地下鉄8号線の延伸



地下鉄8号線の延伸とは、埼玉県のと光市から、江東区新木場までを結ぶ有楽町線を延伸するもので、有楽町線豊洲駅～半蔵門線住吉駅間をつなぐものです。令和4年3月28日国土交通大臣の許可がなされたことを受け、地下鉄8号線の延伸が2030年代半ばの開業を目指し、事業着手されることとなりました。

また、延伸に伴い住吉駅と東陽町駅の間、東陽町駅と豊洲駅の間それぞれ新駅が誕生します。住吉駅と東陽町駅間の新駅を「(仮称)千石駅」、東陽町駅と豊洲駅間の新駅を「(仮称)枝川駅」とそれぞれの地名を付けた仮称で呼んでおり、それぞれの駅ごとに、目指すべき将来像をまとめた「江東区地下鉄8号線沿線まちづくり構想」を策定しました。



概要は
HPをご確認
ください!

江東区の見どころ

江戸の文化息づく 深川地区

神社仏閣の祭礼などの年中行事を中心に、江戸市民の遊興地としてもにぎわい、江戸文化の華を咲かせた深川地区。名所・旧跡が多数存在し、伝統芸能や伝統工芸、「深川めし」に代表される食文化など、庶民の「いき」な江戸情緒を身近に感じることができる地区です。



富岡八幡宮

東京十社にも数えられ、江戸三大祭のひとつ、「深川八幡祭り（別名：水かけ祭り）」で有名な神社。江戸勸進相模の発祥地でもあり、現在も新橋綱誕生の際には土俵入りが奉納されます。



清澄庭園

都の名勝第1号に指定されている清澄庭園。広大な池の周りを島々を取り囲む、明治の庭園を代表する「回遊式林泉庭園」であり、随所に樹木や名石が配置され、四季を通じて様々な美観を楽しむことができます。



松尾芭蕉ゆかりの地

俳諧師・松尾芭蕉は、深川の庵を拠点に活動し区内には芭蕉記念館などの芭蕉にまつわる史跡が数多く残されています。代表作「おくのほそ道」の壮大な旅もこの深川の地から出発しました。



カフェの街

深川エリアは近年、木材倉庫の跡地を活用したカフェが続々とオープンし、「カフェとアートの街」としても大人気。清澄白河のブルーボトルコーヒー日本1号店に代表されるカフェや飲食店が多数存在するおしゃれな街並みを楽しめます。



深川地区

城東地区

臨海部地区

コミュニティサイクルで巡ってみよう！

地域内に設置されたサイクルポートであれば、どこでも自転車を貸出・返却することができるシステムです。自転車で江東区を巡ってみてはいかがでしょうか？



人情あふれる 城東地区

城東地区は、亀戸天神社や亀戸香取神社といった由緒正しい神社仏閣や、活気に満ち溢れる砂町銀座商店街、B級グルメが人気の亀戸駅周辺など、下町の面影や人情を感じることができる地区です。

亀戸天神社

学問の神様である菅原道真が祀られる東京十社のひとつ。「亀戸の天神さま」として親しまれ、受験生や多くの参拝客が訪れます。「新東京百景」の一つにも数えられ、梅や藤の季節には東京スカイツリーを臨む景色が楽しめます。



砂町銀座商店街

テレビなどでたびたび取り上げられる江東区を代表する商店街。180もの店舗が軒を連ね、安くておいしいグルメは食べ歩きも楽しめます。昔ながらの区民の台所は、下町人情味あふれる、心もおなかも満たされるスポットです。



江東花火大会

江東区、商店街、地元企業が協力して開催する、夏の風物詩。荒川に浮かぶ台船から約6,000発の花火が打ち上げられ、夜空を華やかに飾ります。都内では珍しい、目の前で上がる花火は迫力満点です。



KAMEIDO CLOCK

令和4年4月に江東区にオープンした新しい大型商業施設です。こどもと安心して遊べるキッズパークも兼ね備えており、広場で多種多様のイベントを開催しています。地域共生をテーマに都市開発を行い、住宅棟、区立小学校・幼稚園、子ども家庭支援センター、認可保育所が隣接しています。



発展続く

臨海部地区



臨海部地区は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会で全国最多の競技会場を有する大会の中心地となりました。大規模なコンベンション施設や文化・スポーツ施設、東京国際クルーズターミナルなど、発展を続ける地区であり、今後も様々な施設の開業が予定されています。日々変化するその姿からは東京の未来への期待を感じることができます。



豊洲市場

平成30年に首都圏の新たな基幹市場としてオープンした豊洲市場。豊富で新鮮な生鮮食品流通の円滑化と食の安全・安心の確保、効率的な物流の実現を目指し、新たな食の魅力スポットとして、国内外からも注目されています。



有明アリーナ

東京2020オリンピック・パラリンピックの競技会場であり、東京アクアティクスセンターや夢の島公園アーチェリー場、海の森水上競技場と同じく、レガシー施設として活用されています。区民が身近にスポーツイベントを楽しむとともに東京2020大会の成果を未来に継承していきます。



東京国際展示場（東京ビッグサイト）

「東京ビッグサイト」の名で親しまれている日本最大級のコンベンション施設。国際的な会議や展示会、イベントが多数開催され、大人気のコミックマーケットには毎年たくさんの人が訪れ、話題となっています。



豊洲 千客万来

令和6年2月に豊洲市場に隣接する新たな商業施設がオープンしました。食事や買い物に楽しめる食楽棟は江戸の古い街並みが再現され、箱根・湯河原温泉の名湯で温泉郷を実現した温浴棟では展望足湯庭園では豊洲の景観を一望できます。夜にはライトアップされたレインボーブリッジや都心の夜景を堪能することができます。